

古代の風を感じながら

海老名の道を歩こう！ 中村智子 記

2023.12.9



秋葉山古墳群

12月9日（土）午前9時半、自身が「晴れ女」であることを再認識するような良い天気、相鉄のかしわ台駅から佐竹さん・亀井さんと中村が率いる二班に分かれて出発しました。

まずは、今回のメインの一つであるこの地の最高地点にある「秋葉山古墳群」を目指して歩いていきました。このコースにしたのは、古墳から下って歩く方が、参加者には楽だと思ったからです。

秋葉山古墳群には3世紀から4世紀に亘る5つの古墳があり、南関東における古墳造りの変遷などを考える上で貴重な古墳群であり、2005（平成17）年7月に国指定史跡になりました。

そもそも海老名は古代から交通の要衝でした。相模川をはさんで式内社が多く分布していて、近くに夷参（いさま）駅や浜田駅があり、周辺には古代駅路が交叉しています。のちの国造につながる地方豪族が支配していて、彼らが秋葉山古墳群の主であることは間違いないものと思われます。

その古墳群から下ったところには常泉院があり、徳川家光の守役であった青山忠俊の宝篋印塔がありました。国道246号線を渡って千手観音で有名な龍峰寺へ行きました。そして、隣にある弥生神社の階段を降りて、本日のメインの二つ目、相模国の国分尼寺、そして国分寺跡へと歩きました。

国分寺、国分尼寺は、741（天平13）年に、聖武天皇が鎮護国家のために各地に建立を命じたことはご存知のとおり。発掘調査では金堂跡や経堂跡などの遺構があり、1997（平成9）年に国指定史跡となりました。これには、中山每吉（つねきち）という地元の郷土研究家の存在を無視することができません。彼の功績のお陰で、現在、私たちは相模国国分寺などの跡地に立って、古代の風を感じることができるのですから。



相模国国分寺 七重塔基壇跡

その近くには目久尻川の流れと逆であることから命名された「逆川（さかさかわ）」があり、それは古代、運河として使われたようです。国分寺跡の横にある「温故館」に立ち寄り、展示品を見て説明を受けましたが、秋葉山古墳群の被葬者については分からなく、残念ながら、今後も追加の発掘調査をしないとのことでした。そのあと、「海老名の大櫓（けやき）」を眺め、奥の階段を上って「国分寺」に行きました。相模国国分寺は鎌倉時代に衰微し、現在の国分寺は真言宗のお寺となり今に至っています。

解散場所である海老名駅まで歩きました。そこには国分寺の七重塔を模したものがあり、夜はきらびやかに光ります。参加者の中には、国分寺跡近くで客が絶えないお蕎麦屋さんがあり、終了後そちらへ急ぐ方もいました。普段、古墳を登ることや古代の国分寺跡などを訪ねるといふことはあまりないように思います。こうした一日を企画した私たち3人は、皆さんが有意義なものになったのでしたら、とても嬉しく思います。

（参加者 34 名）